

花老て八十の翁としをるれば園の夕はたゞすむ
もろき

月見草白日たへさる趣きか旅の半に故郷思ふも

の

○百號を祝して 俊左久

龍の子の雲に乗るべき相なりぬ今もとどせの齡
へぬれば

昇天のよろほひなりてけふよりぞ雲呼び起す龍
の姿や

○笛

庵を出でる月の流るる谷水に笛ひたし居れば鳴
くはとどぎす

笛吹きて君來ます夜の靡る月柴の戸露に我れ立
ちぬれし

友逝きて暮の戸笛の調合はず散る櫻にも運命悲
しき

亡き友のかたみの笛の塵をはらひ夕べさびしく
吹きて見るかな

さながらに君が奥津城ゆらぐかな力籠めたる笛
の響に

俳句

紫 溟 吟 社

龍南會雜誌第百號を祝す

垂るるとなり藤一百の房となり
南斗 藤坊

雷鳴つて若竹のびぬ一百尺
南斗 紫村

神なつて瀧百丈のたけり哉
鬼灯 紫村

風に登れ龍門高し鯉のぼり
百日紅 紫村

百歳の松の老木や若葉山
呼雲 紫村

双松紫水雨城三子を送る

詣でなば富士の百句の便りせよ
南斗 呼雲

笠脱いで憩へよ比叡の青あらし
呼雲 紫村

船で行け瀬戸は涼しき浪の音
紫村 鬼灯

葉櫻に團子召しませ向島
鬼灯 百日紅

若葉する函根は月に越ゆらんか
百日紅 藤坊

松涼し須磨につかれの面ツラ向けよ
藤坊

團扇に題する居士の俳諧舊派也

全

呈橋洲兄

押入を覗けば晝の蚊二三鳴く

全

色涼しなすびの如く肥は玉ひ

全

蚊遣焚く十歩の庭や自炊庵

全

病 閑

短夜の蚊帳に明けはり朝の雨

全

蠅とつて薬の瓶に放ちけり

南 俳

月に焚く蚊遣いふせき庵かな

全

杜鵑まつからに聞くからに夜の明け易き全

炎天や砂に水まく午の街

全

美しき蜘蛛下りけり今年竹

全

百日紅

若竹の庵とこひぬ二日月

全

若竹や笛吹きたはす御曹子

全

藤 坊

衣更へ桐に風ある日なりけり

全

水打ては蚊の鳴きいづる物の蔭

全

行水や月に突立つ眞ッ裸

全

午の蚊の顔になきよる納屋の隅

全

午の蚊やうなりつかれて壁に伏す

全

人を吊す

時鳥聲沈みけり瀧の關

全

